< 考察 >

[子ども] ①～④

- ・子どもが学校へ行くことを楽しみにしているという評価が昨年度よりも高くなり9割を超えた。また、友だちと仲よくしたり、助け合ったりしているという評価もとても高くなってきている。児童が学校での活動に楽しく取り組めるよう工夫し、どの子どもにとっても居場所のある学校づくりをこれからも目指していく。
- ・学習については、分かりやすく楽しいという評価は昨年前期と比較すると10%高くなっている。今後も教材研究に力を入れ、分かる授業を目指していきたい。
- ・挨拶については、2のつく日を「あいさ2の日」と定め挨拶運動に取り組んでいる。自分から進んで挨拶ができる子が増えてきている。しかし、全般的に見るとやや低めである。意識は高まってきているので、挨拶の大切さを理解させ、明るい挨拶ができるように働きかけていく。

[教師] ⑤～⑧

- ・教師に関する項目では、4つの項目全てで評価が向上している。一人一人の思いに寄り添ったきめ細かい指導や子どもたちの良さをほめ、困ったことがあると相談にのる等の評価が特に高くなってきた。今後も一人一人にきめ細かな指導ができるよう努めていく。
- ・他の項目に比べると読書指導が8割に達していない。学校の図書室や町の天賞文庫と連携し、学年に応じた本を展示し、いつでも手に取れるよう「読書コーナー」を設けてきた。今年はさらに連携を深め、天賞文庫に予約した本を学校で受け取れるようになった。また、8月より読書貯金通帳の取組も始め、子どもたちはたくさん貯めようと意欲的に読書する姿が見られるようになってきた。学校で図書館の本を貸し出ししたり5のつく日の「レッツ5読書」を有効に活用し、積極的に働きかけていく。

[学校] ⑨～⑬

- ・学校に関する7項目の全ての項目で昨年度前期アンケート結果よりも高評価となっている。
- ・体力向上への働きかけはまだ8割に達していない。教科体育、部活動、わかぎっ子タイムや全校マラソン等を通して、更なる体力向上に努めていく。
- ・いじめ、将来の夢や希望、施設や人材の活用、教育的ニーズへの対応に関しては、「よくわからない」の回答が多かった。いじめ防止やキャリア教育等、学校での取組について、もっと外に発信する必要がある。
- ・保護者や地域との交流に関しては、9割以上の肯定的な評価を得ている。校外学習、世代間交流事業等がコロナ禍の影響により中止となっている中でもこのような結果となったのは、運動会や授業参観等を感染防止に配慮しながら工夫して実施してきた成果であると考えられる。学校だよりや学年だより、対話等を通して職員とPTA・地域との連携を今後とも図り安全で開かれた学校を目指していく。

[家庭] ⑭～⑱

- ・子どもたちの生活習慣を確立するために、家族の方が熱心に努力してくれていることがわかる。
- ・学習習慣については7割程度であるが、児童は約9割取り組んでいるとの回答が見られた。家庭での手伝いはやや低め。家庭と学校で協力し、情報を交換しながら取り組んでいく必要がある。

< 自由記述より >

- ・これからもいじめ対策等をつけてほしい。
- ・コロナ禍中でも対策の上、オープンスクールや運動会など行事を計画していただきありがとうございます。
- ・インターネットを使った人との交流、ネットリテラシーを学ぶ。これから先、テレワークなど必要になり、インターネットを適切に使いこなす能力をつけてほしい。
- ・コロナ禍で運動不足になっていると思われる。学校側も対策は大変だと思うが、積極的に体力向上に向けた取組をやっていただきたい。
- ・字をきれいに書く重要性についてご指導願いたい。
- ・校舎の構造上の問題かもしれませんが、教室の天井（屋根裏）のほこりが多いのが、気になります。冷暖房が完備されたのはありがたいですが、子ども達の健康を考慮し、清掃していただけると嬉しいです。宜しく願います。
- ・感染症対策を一層、子どもたちへの教育をお願いします。手洗いの重要性の指導を再度お願いします。さっと洗っても意味がないことと、時間をかけて丁寧に洗うことの大切さを再度指導してください。休日の過ごし方についても改めて教育ねがいます。
- ・バスの中でのルールを、子供達に再度確認して頂きたいです。バスの中で立ったり、うるさくしたり、ルールを守っていない人が結構いるそうです。お手数ですが、子供達の安全のため、再度徹底をお願い致します。
- ・学校行事のお知らせや変更の連絡がもっと早ければ出席対応しやすいと思っています。